

事務事業名	英語指導助手配置事業				担当	教育委員会 学校教育課 指導係	
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			増補版施策名	1-3 小学校低学年での英語授業など英語教育の充実	
施策名	2	小・中学校の教育の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠	真岡市立中学校英語指導助手設置要綱					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 H元 年度～）	
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	3. 中学校費	2. 教育振興費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	<p>姉妹都市交流事業の一環として、英語科の指導体制の充実及び児童生徒の国際理解教育の推進を目的に、グレンドロー市の姉妹都市協会が推薦する者を英語指導助手として真岡地区6中学校に1名ずつ配置する形で実施された。平成22年9月からは、これまでのグレンドロー市からの英語指導助手に代わり、日本での英語指導法の研修を受け、日本語による意思疎通が可能な英語指導助手を業者から配置している。</p> <p>また、小学校での外国語活動のモデル事業として、平成20年度から小学校へも派遣する。平成27年度までは英語指導助手8人の配置であったが、平成28年度から10人を配置し、小学校外国語活動への派遣も含め、英語教育の充実を図る。平成30年度からは、さらに4名増員し、平成32年度からの5、6年生の教科化、3、4年生での外国語活動に備える。</p>						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 29年度実績 各中学校に9名配置するとともに、小学校にも1名配置（拠点校）。担当教諭と共にチームティーチングによる指導を実施。民間業者への業務委託  30年度計画 新学習指導要領への移行期間のため小学校においては授業時数が増加した。そのため各中学校に9名配置するとともに、小学校にも4名の助手を増員し、計5名の指導助手を配置（拠点校）。担当教諭と共にチームティーチングによる指導を実施。小学校において、全ての授業がTTで展開される。	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>26年度(実績)</th> <th>27年度(実績)</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 英語指導助手数</td> <td>人</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>イ 小学校への派遣回数</td> <td>回</td> <td>258</td> <td>255</td> <td>468</td> <td>523</td> <td>530</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)	ア 英語指導助手数	人	8	8	10	10	14	イ 小学校への派遣回数	回	258	255	468	523	530	ウ							エ							オ					
名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)																																										
ア 英語指導助手数	人	8	8	10	10	14																																										
イ 小学校への派遣回数	回	258	255	468	523	530																																										
ウ																																																
エ																																																
オ																																																
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 小・中学校の児童・生徒	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>26年度(実績)</th> <th>27年度(実績)</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 中学校数</td> <td>校</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>イ 小学校数</td> <td>校</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)	ア 中学校数	校	9	9	9	9	9	イ 小学校数	校	18	18	18	18	14	ウ							エ							オ					
名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)																																										
ア 中学校数	校	9	9	9	9	9																																										
イ 小学校数	校	18	18	18	18	14																																										
ウ																																																
エ																																																
オ																																																
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 英語指導助手を配置することにより、英語の学習効果を高めると共に国際理解教育の学習効果を高める。	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>26年度(実績)</th> <th>27年度(実績)</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 英語の学習効果が高まった生徒の割合</td> <td>%</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)	ア 英語の学習効果が高まった生徒の割合	%	100	100	100	100	100	イ							ウ							エ							オ					
名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)																																										
ア 英語の学習効果が高まった生徒の割合	%	100	100	100	100	100																																										
イ																																																
ウ																																																
エ																																																
オ																																																
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 国際化に対応できる人材の育成	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>26年度(実績)</th> <th>27年度(実績)</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 国際理解が高まった生徒の割合</td> <td>%</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)	ア 国際理解が高まった生徒の割合	%	100	100	100	100	100	イ							ウ							エ							オ					
名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)																																										
ア 国際理解が高まった生徒の割合	%	100	100	100	100	100																																										
イ																																																
ウ																																																
エ																																																
オ																																																
(2) 総事業費の推移																																																
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0																																							
			県支出金	千円	0	0	0	0	0																																							
		事業費計(A)	地方債	千円	0	0	0	0	0																																							
			一般財源	千円	29,736	29,736	35,900	35,900	50,804																																							
		事業費計(A)	千円	29,736	29,736	35,900	35,900	50,804																																								
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1																																								
		延べ業務時間	時間	50	50	50	50	50																																								
		人件費計(B)	千円	211	210	208	208	208																																								
		トータルコスト(A)+(B)	千円	29,947	29,946	36,108	36,108	51,012																																								

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成元年、姉妹都市交流事業の一環として開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	英語科指導では、聴く・話す力の育成が重視され、会話能力の向上が重要課題である。配置については市町村の裁量によるが、ほとんどの市町村で導入されている。平成21年の合併により、二宮地区の中学校へ、グレンドロー市からの英語指導助手の推薦が受けられず、民間業者との委託契約による配置という二通りの方法での実施となった。二通りの方法を検証するとともに、グレンドロー市における選考状況を確認し、コスト面及び英語指導助手のレベル等について検討した結果、民間業者からの派遣方法へ変更とする。 平成23年度から小学校5・6年生へ導入された外国語活動を支援するため、英語指導助手の選任について、日本語を話し、小学校の英語指導が適切にできる者を配置する。 平成28年度からは、小学校外国語活動の「教科化」、中学校英語の「授業を英語で行う」に対応できるよう10人の英語指導助手を配置する。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	担任1人では不安があるが、協力してTTで授業を展開することができる。また、英語の授業だけでなく、教育国際交流にも役立っている。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 英語力と異文化理解、国際感覚を養うことは、国際社会に生きる人材の育成という、市の基本政策に結びつくものである。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある すべての生徒に英語力と国際感覚を身につけさせることは、市の施策である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 平成32年度からの教科化に向け、英語教育の充実が求められており、授業時数についても検討が必要である。時数増加の際には、英語指導助手の配置人員の拡充も必要となる。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 小学校外国語活動の5、6年生においては、年間35時間全ての授業で担任とTTの授業を展開し、成果を上げている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 事業の廃止は、英語教育や国際理解教育の充実が図れない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある プロポーザル方式で業者を選定しており、削減できない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 英語指導助手配置に関わる最小限の経費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 義務教育の一環であり、受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							